

【IDWR 感染症週報】

2025 年 30～35 週までをお届けさせていただきます。

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-35.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-34.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-33.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-32.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-31.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-30.pdf>

<発生動向総覧と状況>

- ・これまで伝染性紅斑の定点当たり報告数は増減を繰り返している。第 35 週の時点においては減少しているものの、過去 5 年間の同時期の平均と比較してかなり多い。
- ・第 22 週 注目すべき感染症では「百日咳」についてピックアップされている。2025 年第 1～21 週に診断された百日咳の累積報告数は 22,351 例であり、全数把握疾患としての報告が開始された 2018 年以降、同時期で最多を記録した。

<定点把握の対象となる 5 類感染症>

・インフルエンザ

定点当たり報告数は 3 週連続で減少した。

・新型コロナウイルス

定点当たり報告数は減少した。

都道府県別の上位 3 位は宮崎 県 (17.82)、鹿児島県 (14.84)、長崎県 (13.92) である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は 2,293 例と前週と比較して減少した。都道府県別 では 47 都道府県から報告があり、年齢群別では 0 歳 (71 例)、1～9 歳 (71 例)、10 代 (22 例)、20 代 (30 例)、30 代 (29

例)、40代(36例)、50代(96例)、60代(181例)、70代(587例)、80歳以上(1,170例)であった。

急性呼吸器感染症

定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は岩手県(81.29)、群馬県(80.40)、栃木県(71.47)である。

RSウイルス感染症

定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は福岡県(2.79)、栃木県(2.63)、山形県(2.62)である。

咽頭結膜熱

定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福岡県(0.61)、京都府(0.60)、大分県(0.56)、沖縄県(0.56)である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は愛媛県(4.43)、栃木県(2.85)、長崎県(2.74)である。

感染性胃腸炎

定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は群馬県(8.84)、大分県(8.06)、宮崎県(7.60)である。

手足口病

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は奈良県(1.54)、高知県(0.60)、岡山県(0.43)である。

水痘

定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県(0.53)、鹿児島県(0.42)、埼玉県(0.39)である。

手足口病

定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は北海道(2.90)、高知県(1.20)、沖縄県(1.00)である。

伝染性紅斑

定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(6.38)、大分県(5.53)、長崎県(4.74)である。

ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は富山県(3.11)、山形県(2.62)、石川県(2.43)である。

流行性耳下腺炎

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は佐賀県(0.17)、大分県(0.11)、埼玉県(0.10)である。

・基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎

定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は秋田県(5.00)、群馬県(3.11)、栃木県(2.71)である。

感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）

定点当たり報告数は増加した。5都道府県から5例報告があり、年齢群別では0歳(1例)、1～4歳(1例)、5～9歳(2例)、10代(1例)であった。